

そよかぜ診療所/はるかぜ診療所での研修を終えて

神戸大学医学部附属病院 初期研修医 I

私とそよかぜ診療所との出会いは学生時代にさかのぼります。それは地域医療の授業でした。毎年岡本秀樹先生が神戸大学に公演にいらっしゃって、空手と但馬と地域医療と日本の医療の未来についてお話してくださっていたのがきっかけです。直後にコロナ禍になり閉塞的な学生生活を送りながら、そよ風の吹くような風通しの良い先生のお話が印象に残り、入職後にそよかぜ診療所で実習を希望するに至ったように思います。

但馬は実際にそよ風の心地のいい場所でした。4月は円山川の桜に始まり、与布土温泉の鯉のぼりが泳ぎだす時期で、毎週末に出掛けては緑が深まる山々や、水が引き込まれて蛙や野鳥の集う田んぼを見て自然の息吹を感じることができました。

私は放射線腫瘍科に進み、がん患者の疼痛緩和に携わる予定です。大学病院で積極的な治療を終えた患者は転院か退院になることが多いので、がん患者の看取りはそう多くはありません。そのため地域実習では終末期の患者さんがご自宅でどう過ごされるのか拝見したいと思っていました。毎日の午後は訪問診療を4～5件させて頂き、患者さんの生活、ご家族とのかかわりなどを実際に知ることができて貴重な経験になりました。

また、実習の終わりに発表の機会があり、その場をお借りしてそよかぜ診療所の過去のカルテ情報の収集・解析もさせて頂きました。実体験に勝るものはありませんが、一ヵ月という短い期間で経験できることは限られているからです。閲覧できた200弱の看取りの中で、がん患者の看取りが60程ありました。それらを診ることで終末期がん患者の転帰をカルテから追体験することができました。

更に亡くなる一ヵ月前後の記載から、患者さんの予後を予測できるか検証しました。お看取りにおいて予後を正確に予測することは患者さんとご家族にとって意義が大きいためです。今回はPPIという予後予測ツールを使用しました。これはがん患者に対し、生活の自立度、浮腫の有無、食事摂取量、せん妄の有無によって21日前後の予後を予測するものです。感度は先行研究に劣りましたが、特異度は約85%と先行研究と同等に高く、除外に有効ではないかという結論に至りました。

そよかぜ診療所のカルテは宝の山だと思います。診療所はその特性上小規模であり、どうしても研究するうえでは十分な情報が集まりにくいという弱点があります。そよ風診療所は歴史も長く、規模も大きいので、カルテの情報が豊富という強みがあると感じました。それを有効に活用することでそよかぜ診療所発の地域医療の発信が可能になるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、右も左も分からないなか、手技や週末の過ごし方から将来のことまで、丁寧に心を込めて教えてくださった先生方、職員の皆様には厚く御礼申し上げます。楽しく実のある研修になりました。また但馬に遊びに行きたいと思います。ありがとうございました。